

パネルディスカッションテーマ

「人と関わるロボット」

概要：

ロボットといえば、少し前までは工場の生産ラインに代表されるように「人と隔絶された空間で人に代わって仕事をこなす”道具”」というのが一般的であった。しかし、現在では、人間の活動領域で活動するロボット、あるいはロボット機能を有する機械の利用が徐々に広まりつつある。人間の活動領域で活動するということはその環境にいる「人」の活動にも少なからず影響を与えていることになり、結果的にロボットは「人と関わる」ことになる。「人と関わる」というのはただ、移動するロボットが人とぶつからないようにすれば良いというだけの問題ではないことがわかっている。

アイザックアシモフの小説「われはロボット」のなかで「ロボット工学三原則」というロボットが取るべき行動指針が取り上げられている。

第一条：ロボットは人間に危害を加えてはならない。また、その危険を看過することによって、人間に危害を及ぼしてはならない。

第二条：ロボットは人間にあたえられた命令に服従しなければならない。ただし、あたえられた命令が、第一条に反する場合は、この限りでない。

第三条：ロボットは、前掲第一条および第二条に反するおそれのないかぎり、自己をまもらなければならない。

この三条からなる原則である。これはSF小説の中での法則であるが、実社会でも遵守することが求められる状況もある。

本パネルディスカッションでは、人とロボットの関わりをどのように考えるべきか、どのように対処すべきかを考える。

高齢化社会の到来などによりロボット機能を有する機械を利用することが増えてくることが日常茶飯事となる。このようなロボット（機械）を利用するに当たって制作者になりうる私たちがロボットに触れる周囲の人に対してどう配慮すべきかなどの参考となるようなパネルディスカッションとしたい。

登壇者紹介：

オーガナイザ（司会）

岩井 儀雄

鳥取大学 大学院工学研究科 情報エレクトロニクス専攻 教授

パネリスト（招待者）：

中山 繁生（なかやま しげき）

米子工業高等専門学校 電子制御工学科 准教授

パネリスト（学生）：

中村一暁（なかむら かずあき）

岡山県立大学大学院 情報系工学研究科 機械情報システム工学専攻

高橋 弘（たかはし ひろし）

広島市立大学大学院 情報科学研究科 システム工学専攻